

## 予約型乗合タクシーの利用状況

令和元年10月1日からの予約型乗合タクシーの利用状況は次のとおりである（令和3年3月末時点）。

分析の視点	指標・データ・ルート		ミニバス時の利用状況		予約型乗合タクシーでの利用状況	
			(H30年度)	(H31.4~R1.9)	(H31.4~R1.9)	(R2年度)
公共性の視点 (需要など)	1日あたりの利用者数	E	1.99人/日	2.51人/日	0.27人/日	0.43人/日
		F	3.33人/日	3.67人/日	1.95人/日	1.51人/日
	1便あたりの利用者数(※1)	E	0.67人/便	0.50人/便	0.09人/便	0.14人/便
		F	1.31人/便	0.83人/便	0.65人/便	0.50人/便
経済性の視点 (効率性も)	収支率(※2)	E	1.4%	—	3.2%	3.2%
		F	2.9%	—	3.1%	2.4%
	利用者1人あたりの行政負担額(※2)	E	7,024円/人	—	3,115円/人	3,142円/人
		F	3,413円/人	—	3,211円/人	4,169円/人
	実際の運行回数(運行率)	E	—	—	7.8回/月 (0.09)	12.1回/月 (13.5)
		F	—	—	39.8回/月 (0.46)	34.8回/月 (38.9)
	運行1回あたりの利用者数(乗合率)	E	—	—	1.00人/回	1.06人/回
		F	—	—	1.43人/回	1.29人/回

表1 予約型乗合タクシーの利用状況

※1：予約型乗合タクシーの1便あたりの利用者数は、1日3便とも運行したと仮定した場合の値。実際は予約の無かった便は運行していないため、1.0人/便以上となる。

※2：ルート別の支出額は、コミュニティバス全体の支出額（または予約型乗合タクシー）に対して、運行距離（または運行時間）で按分した数値を使用している。

また、ルート別の収入額は、利用者数に100円を乗じた数値を使用している。H30年度データの出典は、平成30年12月第19回協議会の資料3を元に編集。

## 1. 年度別の推移

年度別の1日あたり利用者数は、Eルートは2.0人以上の利用があったが、現在は1.0人を下回っているものの、利用者は増加傾向にある。Fルートは3.0人程度の利用があったが、現在は2.0人以下の利用に留まっており、減少傾向にある。

Eルート及びFルートの両ルートで、1日あたり2.0人程度の減少がでている。

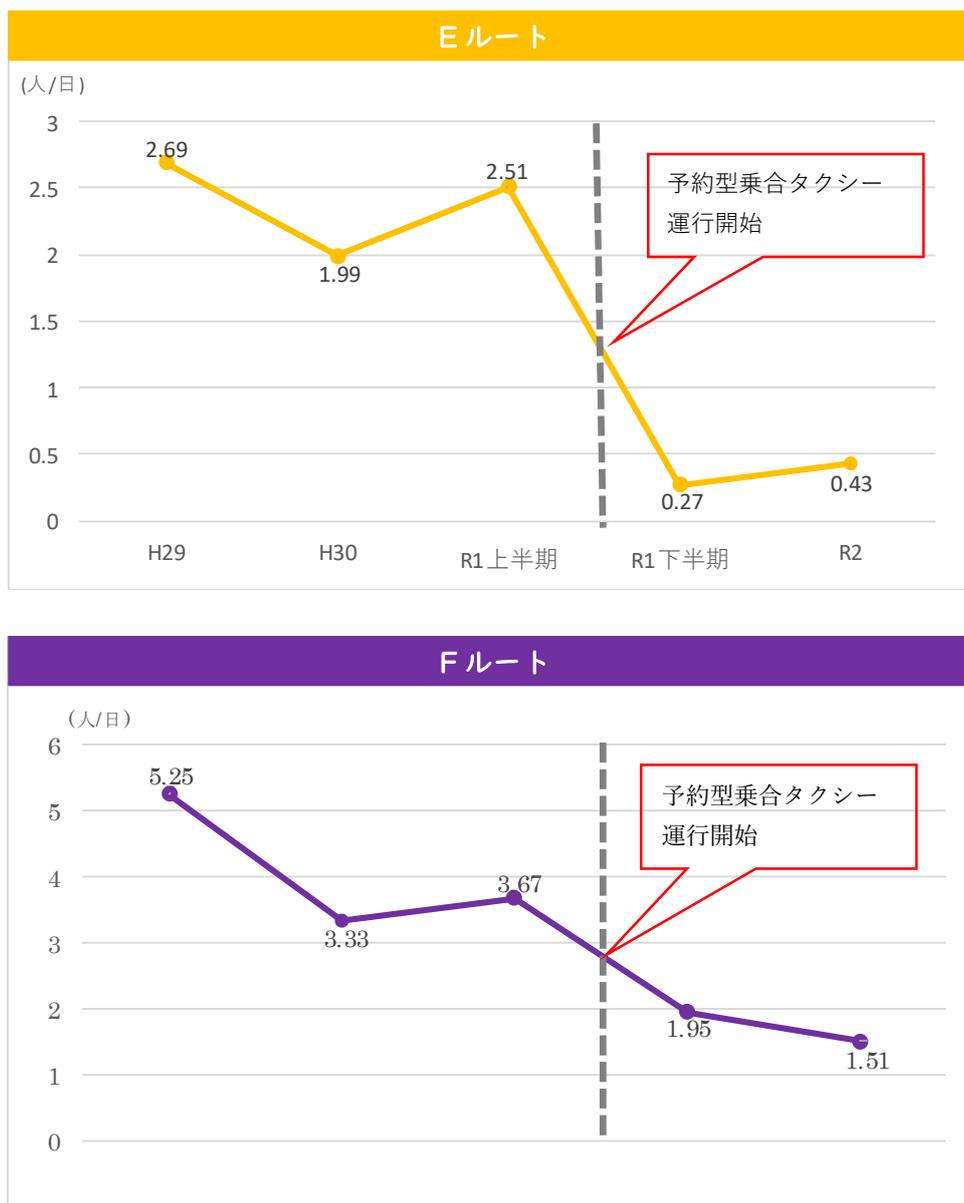


図1 年度別の利用者数の推移

## 2. 月別の推移

予約型乗合タクシーの月別の利用者数は、Eルートは、緊急事態宣言の影響があり、また、夏期（7～8月）と冬期（12～1月）の利用者が少なかったものの、3月には予約型乗合タクシーへの転換後の最大となる19人/月の利用があった。しかし、2便目しか利用が無い月（4月、1月）もあり、利用される便が偏っている。

Fルートは、運行開始直後の令和元年度（10月～3月）では平均57人/月であったが、令和2年度は7月に58人/月となった以外は、令和元年度平均を下回っている。

特に、1月及び2月は、奈良県に緊急事態宣言が発令されていた4月よりも利用が少ない状態となっている。（令和元年度実績 1月：54人/月 2月：64人/月）

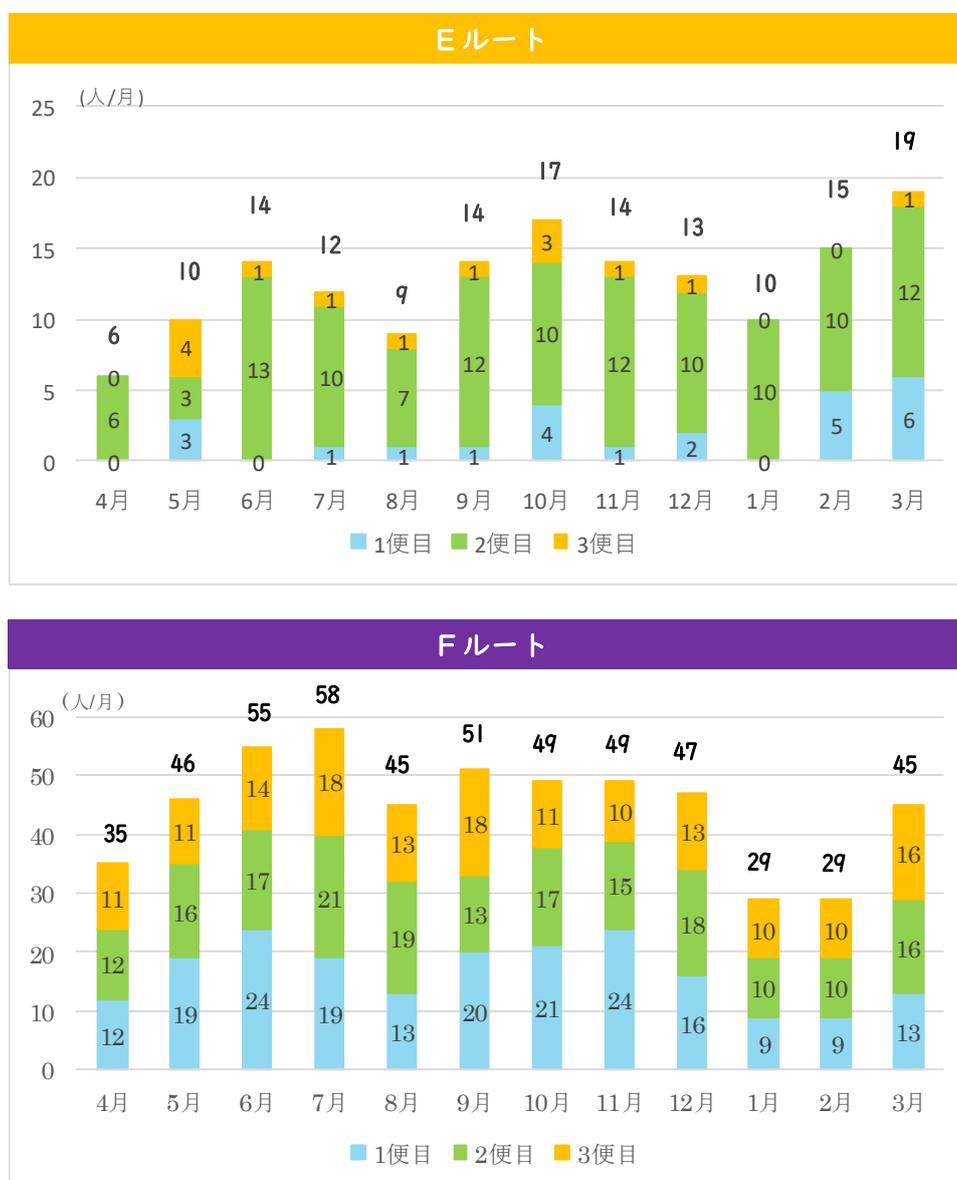


図2 月別の利用者数の推移（令和2年度）

## 2.1. 新型コロナウイルス感染症による利用者の減少

Fルートにおいて、令和3年1月、2月に利用者が減少しているが、特に近鉄新庄駅での利用者が大きく減少している。大阪府や京都府で緊急事態宣言が発出されていた時期であることから、近鉄電車で宣言地域に移動していた方の利用が減少したと考えられる。

令和3年2月の第1便では、前年比15人/月減（乗車6人/月減、降車9人/月減）となっている。

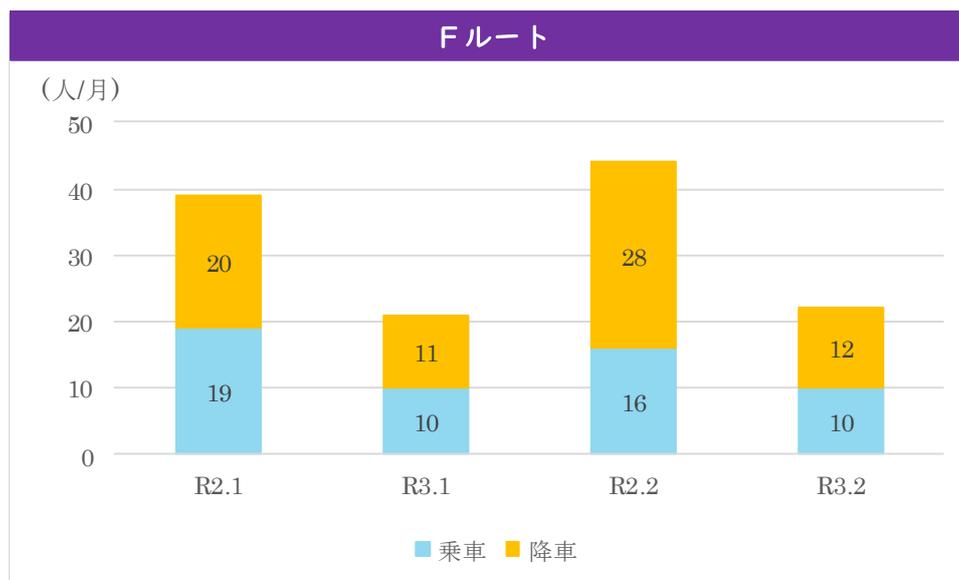


図3 近鉄新庄駅の利用状況（月別【1月、2月】）

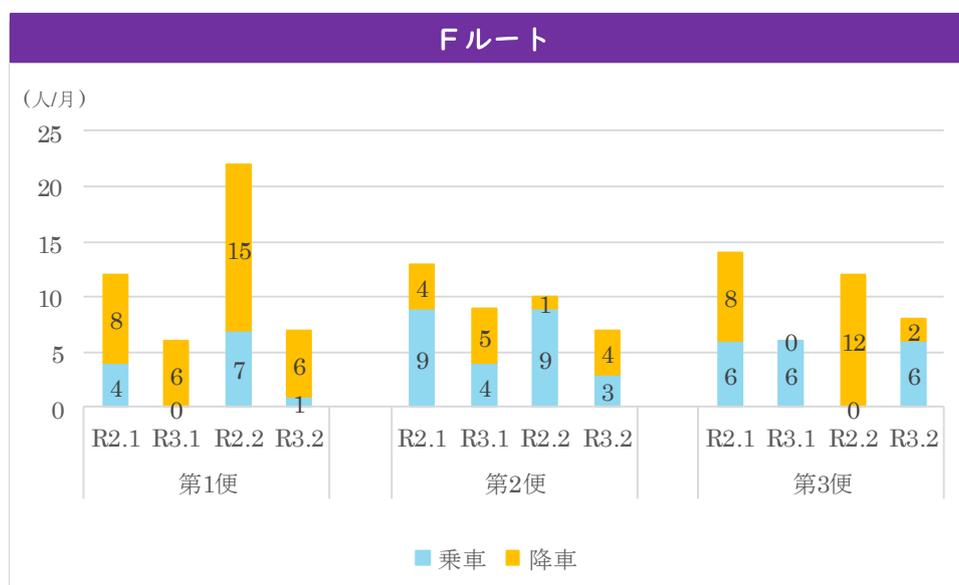


図4 近鉄新庄駅の利用状況（便別【1月、2月】）